

子どもが伸びる家の親のあり方

2019年9月13日

花まる学習会 高濱正伸

1 「小3までに育てたい算数脳」で、書いたこと。

- (1) 「考える力」こそ生きる力である。
- (2) 「考える力」は算数に端的に表れる。それは、「見える力」と「詰める力」と表現できる。
- (3) 「考える力」の根本は、生活と遊びという体験でこそ伸びる。特に外遊びが大事。

2 考える力1 「見える力」=イメージ力。

- ①「空間認識力」②「図形センス」③「試行錯誤力」④「発見力」。

大事なことは、「わが子に、どう身につけさせるか」。五感を使った体験によってのみ育つ。

○外遊び…野外を走り回り、天候・地形・動植物等の危険をいつも感じながら遊ぶことが、素晴らしいイメージ力と、感性を育てる。

○モノそのもの…ドリルではなく、リンゴ・積み木などモノそのものに触れることで伸びる。

○お手伝い…生活をかけた毎日の手伝いは、工夫する力を伸ばす。

3 考える力2 「詰める力」=集中力。

- ①「論理力」②「精読力」③「要約力」④「意志力」

○主体的に遊びきる経験…やること・ルールなどを常に自分の頭で考えて決める経験。

○没頭する体験…はたから声かけしても聞こえないくらいに集中した遊びっぷり。

○やりきる体験…最後までやりきる遊びの中の経験。

○逆境や挫折の克服経験。「なにくそ精神」。

4 親だからできること

(1) 豊富な野外体験を提供する。

(2) 「不自由な経験」を提供する。キャンプ的なものなど。

(3) 「やる気」に焦点を当てる。

やる気が大事。自己肯定感が大事。「とても面白いこと」と「生きるために必要なこと」には、やる気を出すもの。「学び考える面白さや喜び」を伝え、「必然」の中で体験させること。

(4) やる気を伸ばす最大因子は、「親の言葉」。マイナスの言葉をかけないで、親が安心して輝いていれば、勝手にスクスク育つもの。

○日ごろの何気ないNGワードに注意。言葉は怖い。反芻して、自己像を否定的なものにしてしまう。

「だいたいあのときだって…(駄目な叱り)」「何回言えば分かるの」「ちゃんと読みなさい」「宿題やったの宿題は」「○○ちゃんはもう～らしいじゃない」「お兄ちゃんのくせに何よ」「うちのは○○ですから(謙遜の挨拶言葉)」「お父さんに叱られるわよ」…。

5 子どもが伸びる家を考えるキーワード

- ①「ことばの環境」

- ・親が「正しいことば遣い」をする。
- ・間違った使い方は、おだやかに指摘する。(やんわりと正しい言葉を言う)
- ・本を読んでみせる。満喫してみせる。
- ・分からなかったら、すぐ調べる。
- ・「聞いたことに答える」まっとうな会話が成立している。

- ②「親と子のつながり」

- ・「愛に満ちた母のまなざし」がある。
- ・がんばりを見せられる。言葉をかけられる。動きが見える。

- ・机はあってよいが、子ども部屋で勉強の成果をあげた子どもは少数。子ども部屋は、小学生時代までは「勉強するところ」ではない。「整頓を学ぶところ」など家庭で意味を考える。
- ・親の目の届くところで勉強させる。
- ・パズルなどに没頭してみせる。一緒に楽しむ。
- ・たくさん、一緒に、笑う・歌う・話す。

③「母の安心」

- ・母が不安な状態で、子どもの学力は伸びない。
- ・父親の役割＝「温かい母像」を子どもが胸に抱けるための支援。孤独な子育てをする母を支える気持ち。何より我が子の健やかな成長のため。聞き上手に。
- ・外へ！。さらけ出して話せる仲間・ママ友を作る。
- ・「何かあったら、この人のところへ相談すればよい」という窓口・拠り所をつかまえておく。

④「お手伝い」

- ・なるだけたくさん、小さなお手伝いに満ちているのがよい。
- ・必然性を感じられるもの。
- ・いったんまかせたら、頼る。微熱くらいでは、休ませない。継続は力。
- ・学年の変わり目が、新しい提示をしやすいとき。

⑤「モノ」

- ・イメージ力を育てたい。
- ・それには、ペーパーではなく、豊富な経験。具体物で。
- ・「とっても面白いもの」か「生活がかかっているもの」のがよい。
- ・ナイフ・トンカチ・ピンセット・針・ドライバー……。使ってみせる。「何が危ないのか」を説明し、口頭試問した上で。
- ・積み木系は、ほとんどマル。

⑥「創造性」

- ・「作ること」を楽しむ家に。
- ・日曜大工。模型。飛行機。
- ・お料理。おかずを、自分なりに皿に盛りせる（〇〇ちゃんランチ）だけでよい。
- ・俳句・お話づくり。
- ・手づくりパズル。

⑦「外遊び」

- ・知力・体力・社会力等全てを考慮したとき、「子どもにやらせるべき、もっとも重要なもの」
- ・家の周りの動植物の観察だけでも、立派な外遊び。
- ・近所のどこが「危険」で、「どのような良い経験を与えられるか」を、把握しておく。
- ・なければ、大人同士の連携で提供すべき。（車・変質者を恐れすぎて）あきらめない。

⑧「五感+α」

- ・色んな音を聞いたことがある子に。
- ・色んなものを触ったことがある子に。
- ・色んなニオイをかいたことがある子に。
- ・色んな色や形を見たことがある子に。
- ・色んな味・舌触りを味わったことがある子に。
- ・色んな心の動きを経験したことがある子に。



令和元年度テーマ「子どもと親の豊かな心を育もう」

第2回 家庭教育学級 報告書



子どもが伸びる家の親のあり方

将来、わが子を「魅力的な人、そしてメシが食える大人」
に育てるために



保護者の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。子どもたちの健やかな成長のため、本校PTA活動に際しまして皆様のご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて9月13日(金)に花まる学習会代表である、高濱 正伸先生を講師にお迎えし、第2回家庭教育学級を開催いたしました。当日は、中学校の視聴覚室がほぼ満席となる200名を超える保護者の皆様にご参加いただきました。高濱先生は全国各地で保護者などを対象にした講演会を開催し、「メシが食える大人」「魅力的な人」にする教育に携われ、考える力を育てる「なぜパー」や野外体験といった数々の新しい取り組みをされているほか、各メディアにも多数ご出演されています。



講演では、先生ご自身の体験や経験を踏まえて、子どもたちの感性・人間力・思考力をいかに育てるか、その大事さについて熱く語っていただきました。楽しく笑わせながら様々な事例をもとに、子育てにおいて、ついついやってしまいがちなことを親目線で共感しながら、親子間や夫婦間での子育てのヒントがたくさん散りばめられていました。子どもたちを「メシが食える大人」そして「魅力的な人」に育てることがとても大切で、極意は「ニコニコママ」であることを教えていただきました。講演を聞いた後は、きっと悩みや不安が小さくなって、帰ってから子どもをぎゅっと抱きしめ、優しくできそうな自分がいることを実感する機会をいただきました。

～以下、高濱先生からお伝えいただいたキーワードの一部をご紹介します～

◆頭の良さを考えたときにまず注目したのは「思考力とはなんだろう？」

「上底×下底×高さ÷2」などの公式をちゃんと覚える、3桁×3桁の計算が早いということではありません。補助線が浮かぶか・浮かばないか、一定の裏側が想像できるか・想像できないか、論理的に厳しい問題になると嫌になるか・嫌にならないかで差がつかます。頭の良さの本質は見える力と詰める力です。

◆親は情報をうのみにせず、幸せの方程式は自分の頭で考え「そうだな」と決められるように。

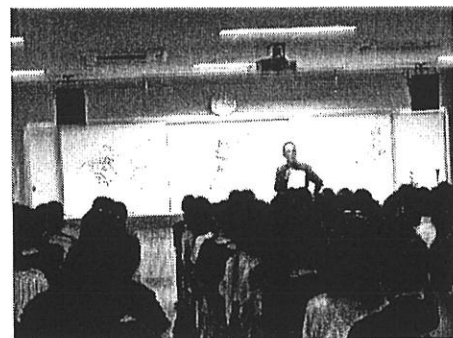
◆基盤とは石垣みたいなものでなかったら上に立てられない。字が書ける、計算が一通りできる、約束を守れることなど基盤だとわかってやる分には良いが、それだけではなく大事なものは強み部分で、例えば思考力などです。

◆感性・人間力・思考力を育てることが重要です。これらはこれからの時代に大事で、強みになるものは積み上げるものではなく、幼児期に基盤が決まっているものです。

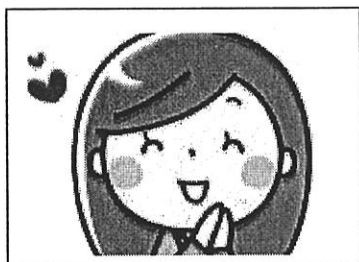
◆いろいろな実力が変わっていくなか、時代が変わったらこういう仕事を作ればいいのか、地頭がある、私についてこいという力とか、実力に長じている人、ちゃんとやれる人、一点突破でだれにも負けない専門性をもっている人は

食いっぱぐれることはない。

高濱先生のお勧めの本は、岡田 光信さんの「愚直に、考え抜く。世界一厄介な問題を解決する思考法」今までの知識ではなく好きなことをやっていれば何かやれるではなく、好きになったらすごく勉強しなければいけないことも教えなければいけない。それらを総合して伝えられる本です。



- ◆お母さんの安心、安定のために外にスッキリできる場所や物があることも大事で、家ではお父さんがお母さんをニコニコにさせることが大事です。
- ◆お母さんの安定があった上で、子どものやる気に焦点を当てることが非常に重要で、やる気はどこで伸びるかという、成功体験で伸びます。苦手・嫌いのマジックをかけられている子どもの9割はお母さんからかけられています。
- ◆褒め方が難しい。例えば、ずっと乗れなかった自転車に、乗れた日に「乗れたね」と事実を伝えるだけで良く、いつも見ていてくれて、共感してくれたことが子どもにはすごく嬉しいことです。その子がずっと気にして、いよいよできたぞ！というときに最高に愛するお母さんが言葉にしてくれるとすごく心に響きます。そうすることで意欲が大幅にプラスの方に向きます。
- ◆伸びる家は言葉環境が関係していて、言葉に厳密で、使い方の違いを強制ではない形で修正することができます。それにより自然に子どもも正しい言葉遣いができるようになります。厳密な言葉の使い方の先に見える力、本質が見えてくるようになります。言葉の正確さ、聞いていることに答えることも大事です。



◆伸びる家のお母さん像は「安心、笑顔、幸せそう」と「頑張っているな」の2つ。お母さんは自分の人生を満喫して、子どもに一生懸命なところを見せてあげてください。ちゃんと子どもは見ています。1日5分で良いので子どもの話を聞いてあげて、あとはお母さんとして生きていれば良く、自分自身も何かに打ち込んでいる方が子どもも勉強します。背中を見せるとはお母さん自身の生き方を見せているので、お母さんが「幸せそうだな」お母さんが「一生懸命だな」の姿が見えると子どもは育ちます。

※本文は、高濱先生の講演をもとに、文化厚生委員会の責任の下で編集したものです。

★講演を聞いて★(アンケートより抜粋)

- ・わかっていてもなかなか実行できないことが多く、今日改めて考える機会を頂きました。
- ・「大人の一言は人生を左右することがあるくらい大きい」という言葉が響きました。
- ・言葉のマジックで子どもは一瞬で自信をもつようになれば苦手意識を植え付けることにもなる。褒めるのもタイミングをはずすとマイナスになる。子どもにかける言葉は選んでいきたいと思いました。
- ・自分のできていること、できていないことがはっきりしたので、自分のできることを始めたいと思いました。子どもは親を見て育つ、自分自信が笑顔で子どもが安心できる環境を作り出したいと思いました。
- ・母がニコニコして、何かに一生懸命にがんばっている姿を見せるだけでいい。という言葉に勇気をもらいました。
- ・納得できる話、耳の痛い話、涙が出そうになる話もありました。たくさんの気付きがあったことはもちろんですが、何より私自身の心が元気になりました。
- ・楽しい話の中にためになることがたくさんあり、今後の育児に役立てなければと今、強く思っています。主人ともぜひ一緒に聞きたかったです。

<講演内容について無回答の方を除く全員にあたる9割の方が、「非常に良かった」「良かった」とご回答くださいました。>

お忙しいなか、参加して下さった皆様、お手伝いをしてくださった皆様、本当にありがとうございました。

<次回 第3回家庭教育学級の予定>

11月26日(火)10時00分~11時30分(9時45分~受付)

☆ワークショップ クリスマスリース作り☆ 講師:田崎 絢子先生(BUDDY 烏山店店长)